

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年12月3日(金)

その1

◇ 湯浅先生(学校保健委員会講師)からの すてきな話



学校保健委員会の講師は、湯浅景元(ゆあさ かげもと)先生。中京大の名誉教授であり、医学博士でもある。大学在職中はスケート部長として安藤美姫、小塚崇彦、浅田真央らの教育に携わられた。同じく教え子である室伏広治スポーツ庁長官とも親交が深く、連名執筆の論文もある。メディアにも引っ張りだこで、出演は数知れない。「すごい先生」なのだ。そんな先生とご縁があり、今回、児童相手に「睡眠・食事・運動と健康」について話をいただいた。



75歳と聞いて驚いた。それほど先生は若々しく見える。若さの理由は姿勢だ。背中に長尺が入っているのではないかと思うほどまっすぐに伸びた背筋。さらに、運動を示範する際の軽快な動き。背筋が伸びているから、気美しく見える。伸びた背筋は、節度ある生活への心がけの賜物。先生の話にあったように、規則正しい生活、プラス適度な運動こそ、若さの秘訣だ。

あっという間の1時間。話にテンポがあり、分かりやすい語り。子供の引き込み方も本当に上手い。実のところ、全校児童相手に話をするというのは難しい。どこの学年に話の焦点をあてるかというよりも、低学年の児童にも分かりやすく、高学年を飽きさせないことが重要。ある意味、大人相手よりもテクニックが要る。だから先生の話は流石というしかない。講話内容に加えて話術も勉強になった。

さて、本題に入ろう。今回お伝えしたいのは、先生の講演の内容ではなく、講演前の休憩時に先生とのお話の中で頂いた素敵な話についてのよもやま話。

その①「フィギアスケートの話」

浅田真央さんの話になった時の話。「あの子たちのように世界で戦うスケーターは、1mm、いや髪の毛1本分のずれを感じ取ることができるんです。足の裏で。そうゆう足をもっているんです。紐の締め付けが少しだけ緩んでも、ブレード(スケートの刃の部分)が少し歪んでも、それだけでジャンプは跳べない。」

「だから選手たちには、高価なスケート靴が、年に 30 足から 40 足必要なんです。これが一番大変だと言っていました。そこで、今、小塚さん（トヨタ自動車所属）と一緒に新しいプロジェクトを進めているんです。スケート靴の。」

「名付けて【ワンコイン・プロジェクト】。500 円でスケート靴が買えるように。そうすれば、もっとフィギアの競技人口が増える。スケート靴が買えなくて才能豊かな子供が競技を諦めなくて済む。子供たちのためのプロジェクトです。」

「実際に協力しようと賛同してくれる人がいるんです。関の鍛冶屋職人さんがブレードを提供してくれる。スポーツメーカーが社会貢献として靴本体を提供してくれる。本当に楽しみです。」　こんな話を聞いちゃっていいの…という感じ。

その②「大谷翔平の話」

湯浅先生が「プロ野球選手の動作解析」をされた番組を自分が覚えていてお伝えすると、その話の続きで大谷翔平選手の話になった。「あの動作解析は今もやっていますよ。野球だけじゃなく、今は 42 競技。話があると無料でやっちゃうので、解析メーカーは嫌がりますけどね。あの大谷選手に専属についている 2 人の動作解析トレーナーは、自分の弟子というか、一緒に仕事をしていた方です。」

「そういえば、大谷選手が国民栄誉賞を辞退したでしょ。あれは、イチローの考え方と同じじゃないかと思うんです。国民栄誉賞というのは、首相が渡すでしょ。それがメディアに乗る。そうすると、海外、特にアメリカの方は、政党から表彰されたと受け取ってしまうんです。スポーツ選手は常に公平でなければならない。だからイチローは国民栄誉賞を辞退したんですね。おそらく、大谷も同じ考えじゃないかと思うんです。もしかしたら、イチローと話をしたかもしれない。でも、決めるのは自分で、彼は栄誉を得るよりも公平でいられることを選んだんです。」

「それから、大谷選手はゴミを拾うでしょ。バッターボックスでふつうに。何の迷いもなくボックス内に落ちていたごみを拾って、後ろのポケットに入れる。大事なのは迷いが無いところであって、投手との対戦より優先したこと。けれども、ごみを拾うことを大事にしたわけではないんですね。もちろんパフォーマンスでもない。あれが、彼が高校時代からずっと続けてきた【あたりまえ】なんです。あたりまえだから、何の抵抗もなくやれるんです。（北海道日本ハム）ファイターズにいた時もやっているんですね。そんなに話題には上りませんでしたけど。」

「マスターズの松山選手のキャディーのホールアウト前のお辞儀。海外の方はあいうフェアプレーが大好きなんですね。」と、室伏広治さんの話へ。先生は話好き。